

ふるさと応援便

すべて独学！唯一無二の作品を造る

木工工芸品を造ること40年。木工作家の玉井さん（東町）にお話を伺いました。コロナ禍と大病が重なり少しお休みをしていた玉井さんですが、今は復帰され、真剣なまなざしで機械を操っていました。「集中していると時間を忘れて作業してしまう」と玉井さん。木と向き合い作業をしている姿は、まるで木と会話をしているように見えました。玉井さんは、「同じ造形をやっている人がいなかったの初めは機械の使い方も分からず、思うような作品が造れないこともあった。自分が造りたいと思う作品ができるようになったのは始めて20年たったころかな。」と当時を振り返



りながら教えてくださいました。玉井さんの作品は丸太を切り出してから最低でも2年は自然乾燥させてから使用すること。また、自然の形をそのまま生かすことにもこだわっているため、あえて節や渋を残すこともあるといいます。

発行元
木工工芸品
たま工芸
×
湧別町企画財政課所属
地域おこし協力隊

北海道オホーツク管内に位置する湧別町。雄大な土地だけでなくサロマ湖とオホーツク海に面しており、漁業・農業・林業など一次産業がとても盛んな町です。そんな小さな町から全国の皆さまへ“生産者の想い”をお届けします。



地元こだわりの、湧別産のみ使用

作品の材料となる木はすべて町内やオホーツク管内のものを使用。町内出身で、「湧別町はいいところだ」とおっしゃる玉井さんは一段と地元愛が強く、全国各地の物産展ではお客様に作品だけでなく町の紹介もしていたそうです。

そんな地元愛から思いついた作品もあり、お客様からも大変好評とのこと。それが「オホーツク 流水彫り」や「ホタテ型のお皿」です。流水をイメージした彫り方は見た目だけでなく手にもしっくりくる形です。これからは、「この「流水彫り」の作品

を主として販売することを考えているそうです。また、現在自宅の敷地内に4畳半ほどの小さなログハウスを建設中で、作品を飾りギャラリー販売も兼ねたスペースにするとのこと。「長年やりたかったことがようやく形になってきた。来てくれ

の方が自由に見て回れたらいいですよ。それで全国からお客様が来てくれるようになれば。」と楽しそうに話されていました。完成は2022年春頃になるようです。



インタビュー
動画公開中↑

返礼品詳細↑

